

主 題：人類にとって最も大切な命令 2  
聖書箇所：マルコの福音書 12 章 31-34 節

一人の律法学者がイエスのもとにやって来て、大切な質問をしました。この問いは私たちもまた自分自身に問いかけなければなりません。神への愛が感情的なものではないか？真実な愛かどうか。それは私たちがどのように生きていくかによって証されます。

先週、神を愛することの具体的な生き方を学びました。

- (1) 神の命令を守ること。みことばに従順であることです。
- (2) 熱心に神に仕える。すべてに愛が動機であることです。
- (3) 罪を憎む。罪を憎み、それから離れることです。
- (4) 再臨を待望する。キリストに会う備えをすることです。
- (5) 喜んで犠牲的に捧げる。神の関心は私たちの心です。
- (6) どんな時にも神に信頼する。
- (7) 正しい人間関係を保つ。教会のリーダーと兄弟姉妹との良い関係です。

神が私たちを愛されたその愛によって愛してゆくことです。1 コリント 16 : 14 「いっさいのことを愛をもって行いなさい。」とあります。また、エペソ 5 : 1 「愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。」、イエスが神に対してもたれた愛、そして、私たちを愛されたその愛です。このように言われると、余りにも神の要求は高すぎて私にはできない、と思ってしまいます。そう気づくのは良いことなのです。神に頼ろうとするからです。自分の力でできると頑張ってもいつか挫折が起こります。そしてまた頑張ります、また挫折…とその繰り返しです。自分の力を過信していることが問題なのです。イエスは「心の貧しい者は幸いです。」と言われました。自分がどんなに弱いものを自覚することから始まるのです。神はできるといわれます。ただし、神の助けによってです。そして、神を愛することは隣人を愛することへとつながって行きます。イエスが律法学者に教えられた大切な命令、そして私たちにとっても大切な教えの 2 番目は、

## 2. 隣人を愛すること 31 節

その具体的な愛し方とは、自分と同じようにということです。1 ヨハネ 4 : 20, 21 には「神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。」とあります。私たちは日頃から人間関係の難しさを痛感していますが、それはだれも自分を人より勝っているとするところに原因があるのです。こんな私たちにパウロはこのように教えています。ピリピ 2 : 3-8 「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけでなく、他の人のことも顧みなさい。あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」と、キリストのこのへりくだりこそ私たちの模範です。どのように人に仕えてゆくのが大切なことなのです。

### (1) 赦す

相手が悔い改めたなら何度でも赦すのです。マルコ 11 : 25 「また、立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があったら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいます。」、マタイ 18 : 21, 22 「そのとき、ペテロがみもとに来て言った。『主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。』イエスは言われた。『七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。』ルカ 17 : 3, 4 「気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。かりに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます。』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」、エペソ 4 : 32 「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」、また、旧約のエ

レミヤ 31:34 では「一主の御告げ。一わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」とあり、イザヤ 43:25 にも「わたしは、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」とあります。

赦すことには強い意志と決意があります。もし、人に対して怒りをもった時、その罪を神の前に告白することです。ヤコブ 1:20 「人の怒りは、神の義を実現するものではありません。」のとおりです。そして、必要ならその兄弟と話し合うことです。忘れようとするのは楽な方法です。そして、相手が悔い改めたなら和解ができます。もし、悔い改めなかったときは交わりを絶つことも起こります。私たちが神のみこころに従うなら神は祝福されます。ある人は言いました。「赦すということの甘美さを知らない愛はほんとうの愛ではない」と。

(2) 兄弟のつまずきとならない、つまずきをおかない。

だれかのつまずきとなるようなことは避けるべきです。ローマ 14:15 「もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動してはなりません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。」、ガラテヤ 5:15 「もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。」

(3) 害を与えない。

ローマ 13:10 「愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。」、その前の 8 節「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。」、お金を借りて返さないということのないように、と言います。私たちは愛において神に対して借りがあります。その返済はこの地上に生きている間中続きます。

(4) 悪口を言ったり、人を裁いたりしない。

ヤコブ 4:11 「兄弟たち。互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。」、心に悪い動機があるからそれが悪口をなつて現われるのです。

(5) 彼らの霊的成長のために尽くす。

彼らのために祈ることです。ローマ 14:19 「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」

(6) 犠牲をはらう。

ヨハネ 15:13 「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」 1 ヨハネ 3:16 「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」、エペソ 5:2 「また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。」、1 テサロニケ 2:8 「このようにあなたがたを思う心から、ただ神の福音だけでなく、私たち自身のいのちまでも、喜んであなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。」、キリストが私たちに示し、そして行なわれた愛こそ、犠牲的な愛の模範です。神の愛は与える愛、この世の愛は奪う愛、利己的な愛です。ヨハネ 13:34, 35 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」と、イエスは弟子たちに言われました。

(7) えこひいきをしない。

ヤコブ 2:1-9 「私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。あなたがたの会堂に、金の指輪をはめ、立派な服装をした人がはいつて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいつて来たとします。あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて、『あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。』と言い、貧しい人には、『あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。』と言うとすれば、あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたではありませんか。それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あなたがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。もし、ほんとうにあなたがたが、聖書に従って、『あなたの

隣人をあなた自身のように愛せよ。』という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。しかし、もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違反者として責められます。」

#### (8) 無条件

マタイ 5 : 43-48 「『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。自分を愛してくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょうか。異邦人でも同じことをするではありませんか。だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」

⇒これらは神の助けによって可能です。ローマ 5 : 5 「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

#### C. 律法学者の応答 32-33 節

イエスのことばに耳を傾け、「まさにそのとおりです」、「隣人をあなた自身のように愛することは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています」と応答しました。心を開きみことばにすなおに反応したのです。

#### D. イエスの応答 34 節

この律法学者に対して、「あなたは神の国から遠くない。」と言われました。救いのためにもう一步出て来なさい、少しでも早く…、と。

イエスが私の救い主、主でなければ、神に喜ばれることはないのです。神を愛することは兄弟を愛することです。マタイ 25 : 31 からイエスさまはさばきのときのことを、羊と山羊のたとえをもって話されています。「羊を自分の右に」とは祝福です。「山羊を左に」とはのろいです。神に祝福された人たちとは、35-40 節にあるとおりです。「あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渇いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渇いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』と。これは患難時代のことですが、この人たちは救われているから、ユダヤ人に手を差し伸べたのです。このような小さな行ないをも神に覚えられているということは私たちへの何と言う慰め、あわれみでしょうか。

さて問題は、このように学んだ私たちがどのように生きるかです。